

高校生の地震に対する意識調査および地域による相違点

A survey of how high school students in Saitama and Kobe feel about earthquakes.

荒井 賢一[1]; 数越 達也[2]

Ken'ichi Arai[1]; Tatsuya Sugoshi[2]

[1] 栄東高等学校; [2] 須磨友が丘高

[1] Sakae-Higashi High School; [2] STSHS

高校生が地震についてどのような意識を持っているかを調査することは、義務教育においてどの程度に基礎的な知識が定着しているかを知ることであり、高校において理科教育および防災教育を推進するうえで欠かせない資料である。

栄東高校（埼玉県さいたま市）の生徒を対象に、

2003年9月に「地震アンケート」を実施した。対象としたのは、選択演習の地学を受講している1,2年生、物理の授業を選択している2年生、そして理科研究部の生徒1,2年生(以上、合計58人)である。アンケートでは、1つは地震についての科学的な理解に関して質問をした。もう1つは、地震についての日常からの備え(物的備えと心の備え)に関する質問をした。設問は選択肢を2で囲む形式と考えを記述する形式の両方で構成した。「質問の内容と得られた回答」の一部を以下に紹介する。

「震度とマグニチュードの違い」については、「自信をもって説明できる」と回答した生徒が14%、「なんとなく分かる」が52%、「言葉は聞いたことあるが、説明はできない」が34%、「聞いたこともない」は0%であった。

「大地震に備えて、普段から自宅でどんな対策をしているか?」という問いに対しては、「避難場所の確認」と回答した生徒が59%を占めた。なお、「何も対策をしていない」と回答した生徒が29%いたことも気になった。

「首都圏に大きな被害をもたらす大地震は、いつ頃に発生すると思うか?」という問いに対しては、「2005年までに発生する」を選んだ生徒が34%を占めた。一方で、「自分自身が生きている間には発生しない」を選んだ生徒も23%いた。「発生してほしくない」という願望を含んだ記述も目立った。

「東海地震は予知できる(公的に予知情報が地震発生前に発表される)と思うか?」という問いに対しては、「予知情報が地震発生前に発表される」を選んだ生徒は21%であった。これに対して、「発表される前に地震が発生する(「予知自体が不可能である」を含む)」を選択した生徒が79%を占めたことが特徴的である。

高校生の地震に関する意識に地域による違いがあるかどうか検証するために、数越(2003)による神戸市の被災経験のある高校生の意識調査と埼玉県の結果を比較検討を行ない報告する。